

**「教育委員会等における小学校プログラミング教育
に関する取組状況等について」※
概要及び活動方針等**

※平成29年度 文部科学省委託調査

「教育委員会等における小学校プログラミング教育に関する取組状況等について」概要及び活動方針等

1. これまでの取組

2. 調査結果概要

2.1 調査(2018年2月時点)の趣旨と目的

2.2 プログラミング教育の取組状況

2.3 地域別ステージ分類

2.4 ステージ別の取組をしていない理由／実施にあたり困難と感ずること

2.5 ステージ別の支援受け入れ状況

3. 課題と活動方針

① 課題

② 主な活動方針

1. これまでの取組

1. 平成28年12月 中央教育審議会答申において学習指導要領改訂の方向性を提示
 - ・ 情報活用能力を、言語能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付け
 - ・ 小学校においては、文字入力など基本的な操作を習得、新たにプログラミング的思考を育成
 - ・ プログラミング教育を推進する官民協働のコンソーシアムの必要性
2. 平成29年3月9日「未来の学びコンソーシアム」設立
3. 平成29年3月31日 小学校及び中学校の新学習指導要領を公示
 - ・ 「小学校においては、教育課程全体を見渡し、プログラミングを実施する単元を位置付けていく学年や教科等を決定する必要がある」（既存教科の中で行う）
4. 平成29年6月28日 「未来の学びコンソーシアム」第1回運営協議会開催
5. 平成29年12月「未来の学びコンソーシアム」体制強化
6. 平成30年3月8日「未来の学びコンソーシアム」第2回運営協議会開催
 - ・ 小学校段階のプログラミング教育に関する学習活動の分類(6分類)を公開
7. 平成30年3月30日「小学校プログラミング教育の手引(第一版)」公開 (文科省参考資料P3)
 - ・ 「小学校段階のプログラミング教育に関する学習活動の分類(例)」を提示
(文科省参考資料P5)

2. 調查結果概要

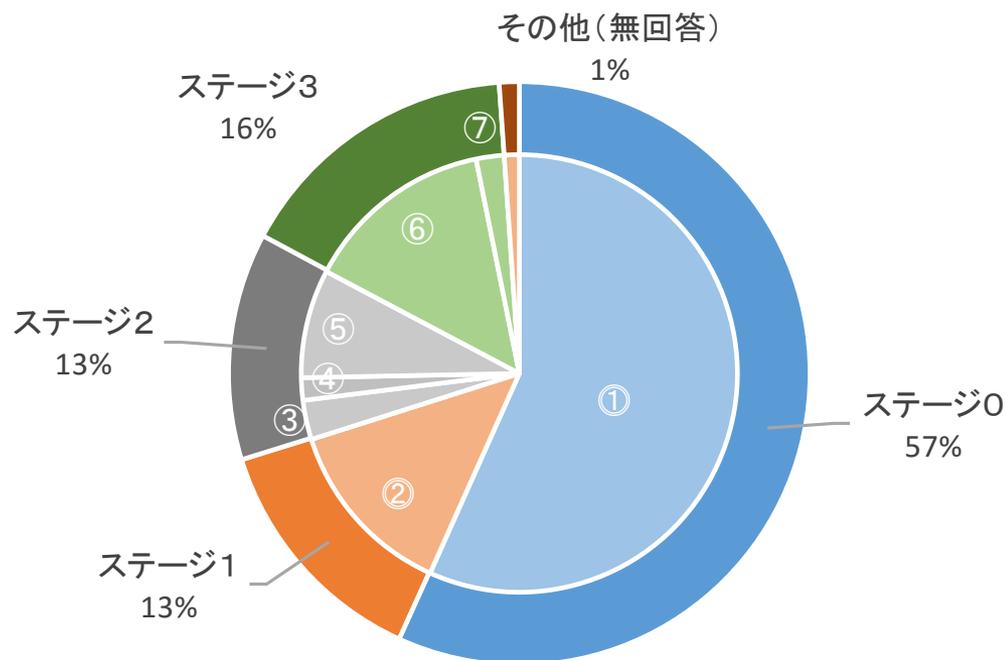
2.1 調査(2018年2月時点)の趣旨と目的

本調査は教育委員会の担当者に、2020年度のプログラミング教育の全面実施に向けて、**どのようなことに取り組んでいるのか、どのような現状なのか等についてアンケート**を行い、これにより全国の状況を把握し、文部科学省や官民協働の「未来の学びコンソーシアム」において、プログラミング教育を推進する際の参考とすることを目的としたものである。

なお、新小学校学習指導要領や同解説をわかりやすく解説するとともに、具体的な教科等での指導例を掲載した資料「**小学校プログラミング教育の手引(第一版)※**」**公表前の教育委員会の状況**であることに留意する必要がある。
(※文部科学省が、平成30年3月30日に公開)

2.2 プログラミング教育の取組状況

- ・「小学校プログラミング教育の手引(第一版)」発表前の調査(2018年2月時点)。全市町村教委へ調査を実施
- ・調査対象教育委員会数1733団体:回収722団体(回収率42%)



取組状況を4段階のステージに分けて集計

- ・ステージ0:特に取組をしていない
- ・ステージ1:担当を決めて検討中
- ・ステージ2:研究会や研修を行っている
- ・ステージ3:学校で授業を実践している

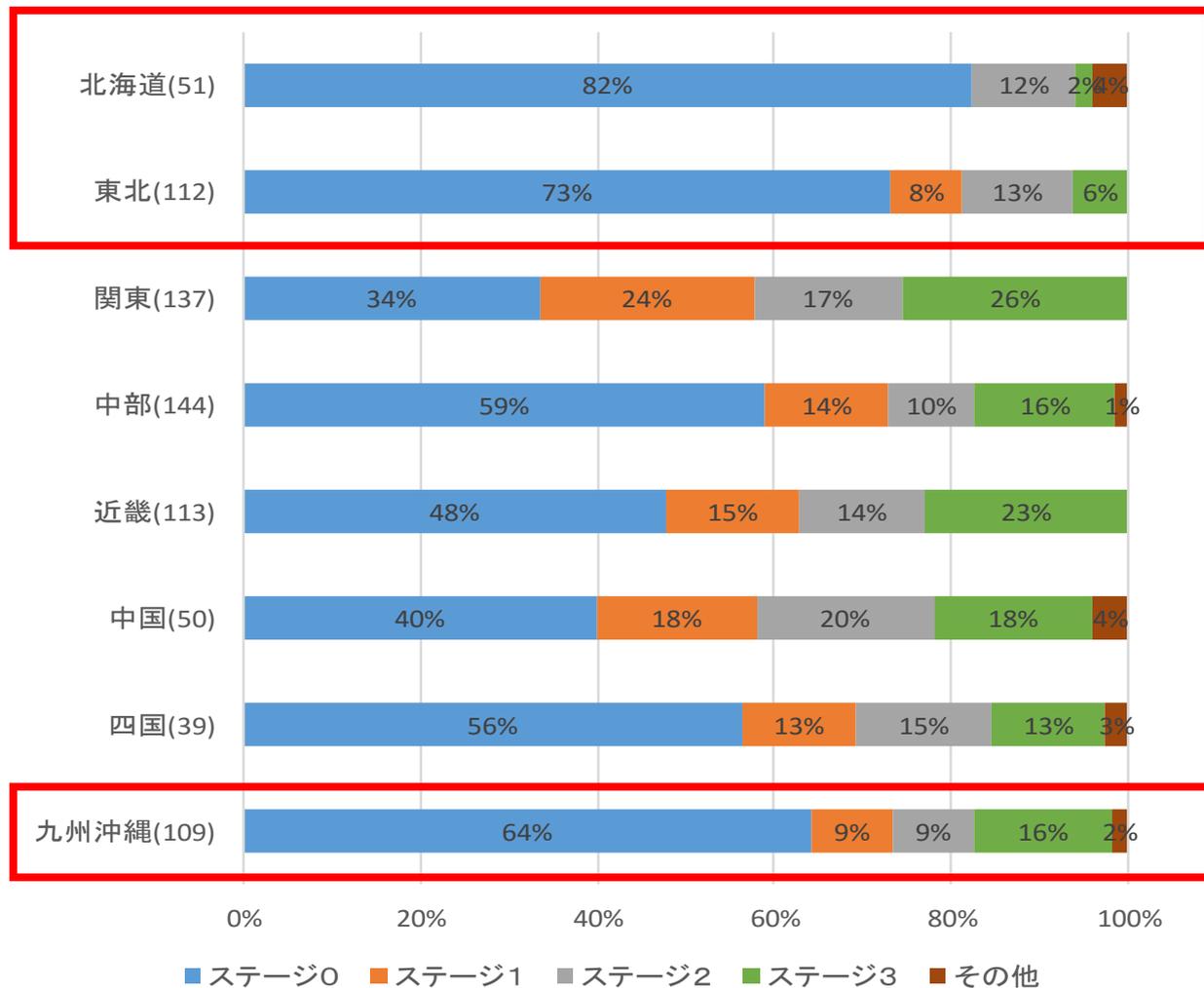
「プログラミング教育の手引(第一版)」で具体的な指導例を例示する前にもかかわらず、約43%の教育委員会はアクションを開始している

- ① 「プログラミング教育の情報を収集している。もしくは特に取組はしていない」のみ。
- ② 「教育委員会内で、プログラミング教育の担当を決めて今後の取組を検討しているが、実施はしていない」のみ。
- ③ 教育委員会主導の取組は実施していないが、一部の教員がプログラミング教育の研究会などを行っている

- ④ 教育委員会主導で、プログラミング教育の研究会などを行っている
- ⑤ 所管する小学校教員に対して、プログラミング教育の研修を行っている
- ⑥ 教育委員会主導もしくは学校主導で、一部の小学校でプログラミング教育の授業を実践している
- ⑦ 小学校全校でプログラミング教育の授業を実践している

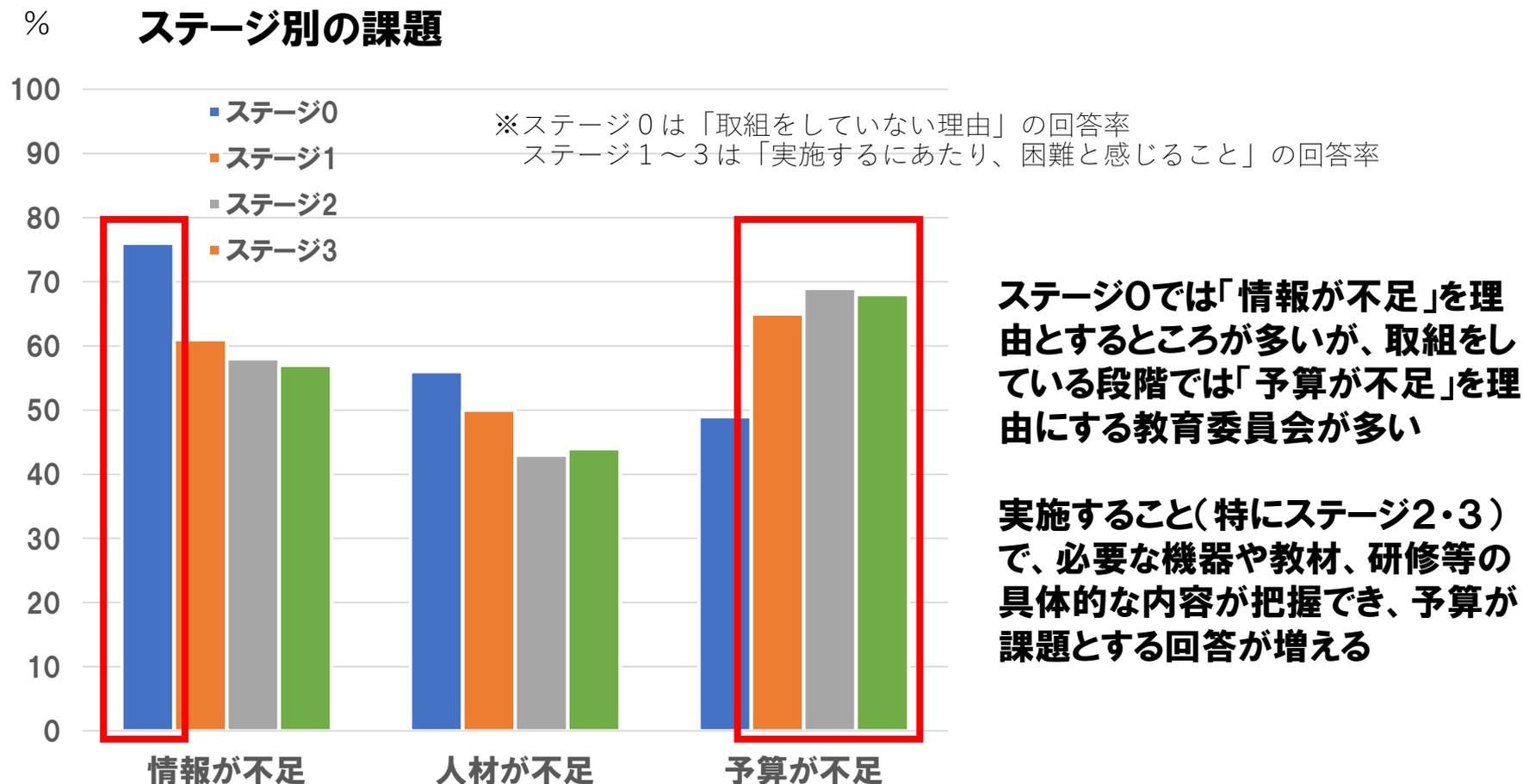
2.3 地域別ステージ分類

地域別では、特に北海道、東北、九州沖縄で「ステージ0」(特に取組をしていない)の割合が多い

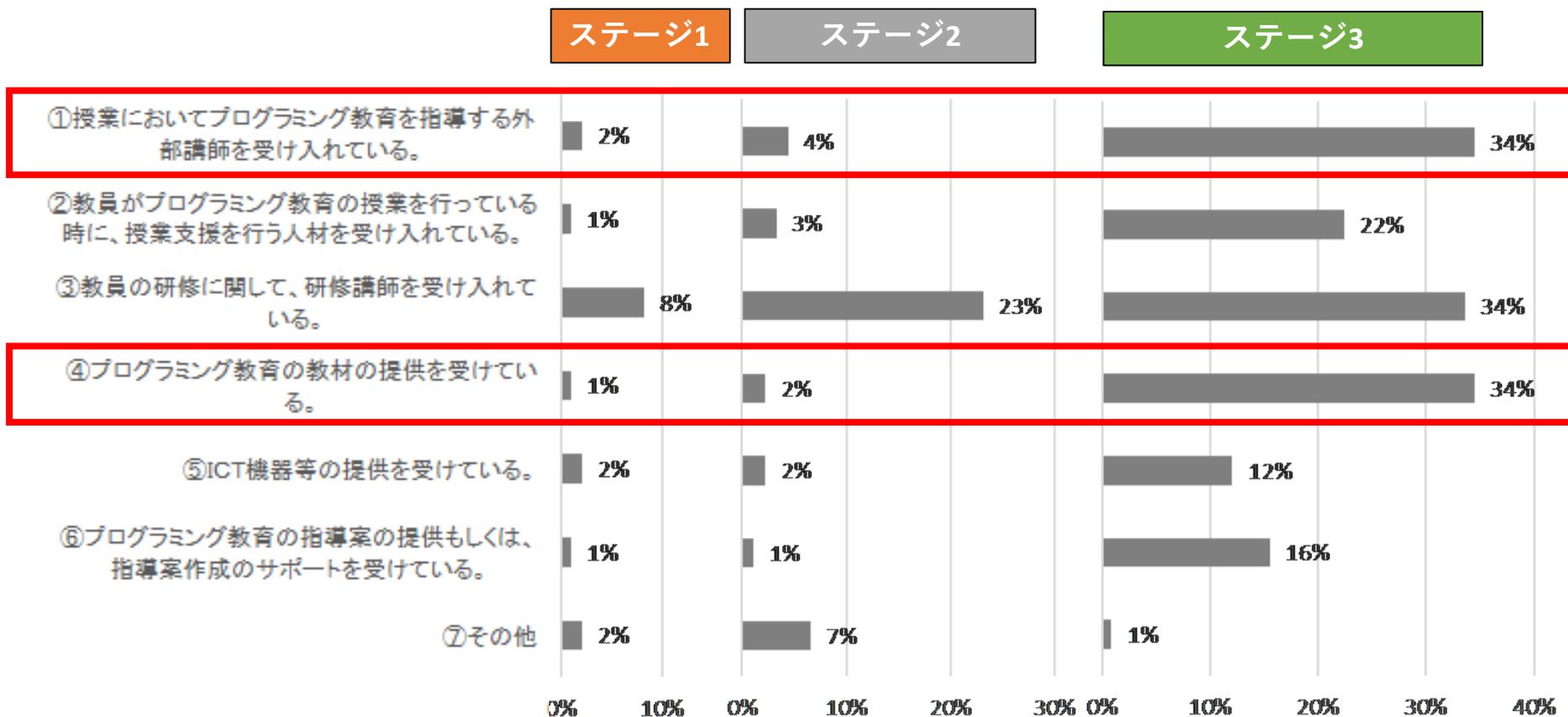


(ステージ0の割合 関東:34%、九州沖縄64%、東北:73%、北海道:82%)

2.4 ステージ別の取組をしていない理由 ／実施にあたり困難と感ずること



2.5 ステージ別の支援受け入れ状況



ステージ0→1, 2への移行では③が多い
 ステージ1, 2→3への移行では①、④が多い

3. 課題と活動方針

① 課題

当該調査研究やコンソ事務局によるヒアリング等を通じ、主に以下の課題があることが判明

- ✓ プログラミング教育の意義・必要性に係る教育委員会・学校関係者の「認識不足」
- ✓ 教育委員会・学校関係者にとっては、「情報不足」が一番の課題
- ✓ 各教科等でプログラミング教育を行うことに対して教員に「不安」があり、プログラミング教育への「意欲」も高いとは言えない

② 主な活動方針

- ✓ AB事例に係る実践事例や魅力的なプログラミング教材に係る効果的な取組発信を通じて、学校・教育委員会関係者の「情報不足」を解消
- ✓ プログラミング教育の意義(とりわけ必修化の意義)について、分かりやすく、かつ、徹底して教育委員会・学校関係者に周知
- ✓ 教員の意欲を高められるよう、民間と学校現場との「対話」を通じた魅力的な授業・教材の開発・改良を促進



ポータルサイトからの
情報発信



学校・教委との対話



民間企業との対話